

「 ブラックバスにさよならを 」

(協同組合通信/金曜論弾)

平成 17 年 2 月 25 日

多くの論争が行われ待望の特定外来生物被害防止法が、6月に施行される見通し。日本列島は、地勢学的、気候学的にも生物多様性の条件の整った世界でも稀有な地域。ところが、この生態系に無知で傍若無人な人々の言動やビジネス至上主義による繁殖力の強い外来生物の密輸と放流の横行が、山川草木の生態系を破壊し社会問題化して久しい。貴重な固有種が大口をあけた人と魚に、息も絶え絶え。

今回の法律の目玉、ブラックバスとセイヨウマルハナバチの両者が明暗を分けた格好である。ハチの方は農業への影響を考慮し、指定のおはちが回ってこなかった。

わが国の多種多様な生物相と独自の生態系は、生命の母なる海に恵まれ、南北に長い森林列島の自然条件と先祖の懸命かつ賢明な環境保護と生物に対する愛着の賜物。

北米原産の生命力の強い獰猛なオオクチバスは、釣りの時のひきがたまらない、との釣り愛好家や一部の漁業組合と業界のエゴで、多くの湖沼で太古から嘗々と続いてきた魚介類を駆逐し、絶滅の危機に追いやられている種までである。

アウトドア派という生物・自然科学の素養なきタレントやアンケートなどの阻止活動で、直前まで指定から外されていた。そこに、小池環境相の登場。釣り業界のビジネス最優先の無定見を一蹴し、逆転の外来生物指定を即断。

胸のすく素晴らしい環境相の英断。一度、失われた生物は二度と戻ってこない。日本オオカミや佐渡のトキが死をもって示した。この自明の理に、一部の愛好家の勝手な言い草は見苦しい。飽きの来た小泉首相のパフォーマンス独断専行国会が、わが国の世界に誇る生態系維持に向かって船出する一つの立法化。自民党に有意な人材がいることも分かった。野党から、何も声があがってこないのでは、二大政党化は夢幻か。岡田民主党が消え行く種の運命をたどるのかどうか。

バスやハチと違って、国会論争は公開の下、切磋琢磨しつつ厳しい世界情勢を見守り、日本民族の種を永続するべき、正しい自然科学の知識に基づいて欲しい。

(気象情報システム株式会社 高 津 敏)